

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

活動地域・団体名：徳之島地区自然保護協議会

今後地域の将来像を実現するために必要と考えられる事業を3つ書いてください。

1 事業名称：徳之島産農作物の高付加価値化事業		
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック
<p>2020年夏、世界自然遺産登録が期待される徳之島において、島内で生産された農作物の高付加価値化を目指す。</p> <p>高付加価値化にあたっては、世界自然遺産のネーミングブランドを活用するほか、アマミノクロウサギなどの希少種との共存を目指した取り組みを行っている農家が生産した作物等を対象とする。令和元年度では、アマミノクロウサギが訪れる農園で育ったタンカンのブランド化を推進した。</p> <p>農作物の売買単価をあげることで、農家の所得向上に取り組むとともに、環境保全型農業の普及を推進する。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	世界自然遺産登録による経済効果を、徳之島の主幹産業である農業に波及する。
	②どの地域資源を活用するか	世界自然遺産地域（予定）で生産されている農産物。
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	希少種とともに育った農作物を対象。
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	行政、生産農家、生産農家団体。
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	世界自然遺産の島生まれの作物として高付加価値化を図る。さらに、既存のGAP制度を農家に推奨していくことで、環境配慮型の農業が推進される。
		ブランド化にあたっては、魅力あるストーリーの構築や的確な素材の抽出など外部の専門家からの助言がほしい。 ブランド化された商品を域外に販売するツールとしてふるさと納税等を検討しているが、その他の消費者に届けるための手段が課題となっている。 現在、大手企業との販売契約の交渉を行っている。
		ブランド化された農作物を紹介するライター、域外のターゲットに効果的な販売促進を行える事業者

2 事業名称：アマミノクロウサギ食害モニタリング事業		
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック
<p>上記に関連し、国の特別天然記念物であるアマミノクロウサギによる食害をモニタリングする。具体的には、食害の発生場所、農作物、規模、被害額のモニタリングを行い、発生時期や発生条件を特定する。</p> <p>本事業の実施にあたっては、農家に委託し、農業閑散期を中心に調査を行う。</p> <p>得られたデータから効果的な食害対策方法について、行政・関係機関と協議を行い、対策を講じる。</p> <p>資金としては、行政からの支出金のほか、徳之島産農作物の高付加価値化事業で得られた利益の一部を充当することで、農家全体が関心を持てるよう工夫を凝らす。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	個体数が回復傾向にあるアマミノクロウサギの存在が農家の生活を脅かす可能性があるため。
	②どの地域資源を活用するか	農家間のネットワークを活用
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	食害の発生原因を特定し、必要な対策を講じることで、今後の食害を未然に防ぐことが出来る。
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	行政、生産農家、生産農家団体
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	事業に賛同する方からの寄附等が見込める。また、日頃から現場で作業している農家に委託することで、迅速な活動・より正確な情報が得られる。
		アマミノクロウサギは奄美大島・徳之島の固有種であり、生態や行動について研究されていない部分が多く、発生原因を特定するには相当な時間(調査・研究)が必要と予想。 的確な助言者がいないと、食害発生を記録するだけに終わってしまう可能性がある。
		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
		アマミノクロウサギ 生態学の専門家。

3 事業名称：徳之島環境学習事業		
事業概要	事業の内容	現時点で想定される課題・ボトルネック
<p>希少な生きもの達が暮らす自然環境を後世につなぐため、その価値を正しく理解し、誰もが自然を守るための意識啓発を行う。</p> <p>域内を対象としたイベントでは、希少種の暮らす森での自然体験イベントや天然素材を使ったクラフトワークを開催することで、幼い頃から自然との親しみを通じた環境教育を実施。</p> <p>域外を対象とした取組みでは、②の事業によって確立された食外対策方法を「希少種と農家の共存を目指す取り組み」としてエコツアー化の商品化を目指す。</p> <p>活動資金には、徳之島産農作物の高付加価値化事業で得られた利益の一部を充当することで、住民全体が関心を持てるよう工夫を凝らす。</p>	①なぜこの事業をやるのか (Why)	徳之島の自然環境を守っていくためには、行政・企業・民間の域内・域外全ての方の関心を高める必要がある。
	②どの地域資源を活用するか	豊かな自然
	③商品・サービスの具体的な内容は何か (What)	森のピンゴ、ドングリワーク、エコツアー、等
	④誰がこの事業の主たる担い手か (Who)	行政、NPO団体等
	⑤この事業により地域内で何が循環するか またはどのような循環が起こるか	域内では、幼い頃からの自然体験により、徳之島の自然について理解ある人材が育つ。また、域外から人を呼び込むエコツアーを実施することで外部から資金を稼ぐ。
		域外からの流入を見込んだエコツアーの組立てにあたっては、他地域での事例や参加される方のニーズを十分に把握したうえで行う必要がある。 徳之島のような交通の利便性が悪い場所でも出かけたくなる魅力あるエコツアーの確立に向けて、専門家からの助言がほしい。
		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
		希少種との共存を目指した取り組みを行うエコツアー団体の代表者。